

第6学年 学級活動指導案

日 時 平成19年10月12日(金) 5校時

児 童 男8名 女7名 計15名

授業者 一関市立門崎小学校 教諭 那須野 香里

1 題材名 「広げよう 自分の夢」

2 題材について

(1) 題材設定の理由

キャリア教育で目指す児童・生徒の姿は、「自らの人生に前向きに臨み、自己の個性をよりよく発揮しながら社会的な自己実現を図ろうとする主体性を身に付けている人間」「多様な考え方や情報を適切に判断、処理したり、思考したりしながら、自己の考えを確立できる人間」である。

小学6年生と中学1年生のキャリア教育の視点から課題を考えると、コミュニケーション能力の弱さや、自分のよさに気づかない・将来の夢を描くことができない児童・生徒がいること等があげられる。このような課題をうけて、今回の小中連携を図った特別活動におけるキャリア教育では、人間形成能力・将来設計能力の向上を図ることを重点と考えた。

小学校の学習では、自分自身の姿や行動を振り返ってみたり将来の夢や職業について考えたりすることは、必ずしも多くはない。そこで本題材を設定することにより、児童に自分を見つめ直したり、将来について考えさせたりする場を与えるものである。この学習によって、仕事への関心をもたせ、さらに、自分のよさや頑張ることの大切さに気づくことで、将来に向かって前向きに考え、行動する児童を育成することができるであろう。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、将来の夢(なりたいもの・やってみたい職業)を一度考えている。男子児童の多くはプロスポーツ選手を夢としており、女子児童は美容師、保育士になりたいという夢が多かった。どの児童も将来の夢を描いているように思われるが、本当に目指しているかとなると半数の児童は「わからない」と答える。これは、本当は将来の夢を描いていない児童がいることや、全体的な傾向として、自他のよさを認め、高めていこうとする態度や、目指すものに向かおうとする態度につなげられないことが考えられる。

あきらめずに努力するという視点で児童を見ると、今やらなければならないもの(勉強・スポーツ等)に対しては、目標を立て努力をすることはできても、継続して行っていかなければならないことには、途中であきらめる児童も少なくはない。

しかし、素直な児童であるため、努力することの大切さを知ったり、自分にもできるといった自信をもったりすることができれば、将来の希望を主体的に描き、それに向かって頑張ろうとする児童になっていくものと思われる。

(3) 指導にあたって

本題材の指導の導入として、「朝がくると」の詩の感想を交流する。その詩から、自分が様々な人から支えられている存在であること、自分も誰かの役に立つ存在であること、そのために今を頑張って生きていかなければならないこと等を感じさせ、本題材の学習へと進めていく。

「朝がくると」の詩をうけて、仕事について考える学習を行う。身の回りの仕事を取り上げ、仕事の内容や仕事をしている人の頑張っている姿を考えさせることによって、仕事に対しての関心をもたせるとともに、仕事をしている人への尊敬の気持ちをもたせたい。

次に、自他のよさについて考える学習を行う。この学習によって自分自身のよさや頑張りを他から認められたり、自分自身でも認識したりすることで、「頑張ってたかった」「自信がついた」という満足感をもたせたい。この満足感が、将来の希望を主体的に描くことができる児童の育成につながるであろう。

また、自他を認め合いながら、温かい雰囲気の中で話し合いを進めることで、自分の思いを表したいという気持ちもち、意見を述べ合うであろう。これをコミュニケーション能力向上の一助としたい。

3 本題材のねらいと評価規準

(1) ねらい

身の回りの人や自分の生き方を振り返り、あきらめずに努力することの大切さに気づくとともに、自分の将来の希望を主体的に描くことができる。

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none">身の回りの仕事に関心をもつとともに、課題解決に意欲をもって取り組もうとしている。将来の希望を主体的に描こうとしている。	<ul style="list-style-type: none">互いの考えを交流し合いながら、自己を生かす方法について考え、判断している。	<ul style="list-style-type: none">自己を見つめながら、将来について自分なりの考えを表現することができる。	<ul style="list-style-type: none">様々な職業の様子、働くことの意義や大切さについて理解している。目標のために努力することの大切さについて理解している。

(3) 本題材のキャリア教育で育みたい能力

人間関係形成能力

他者の個性や考えを認め適切な人間関係を築こうとするとともに、自己のよさや個性を知り、自らの生き方を大切にしていこうとする能力

将来設計能力

夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、将来の人生や職業生活における夢や憧れを主体的に描こうとする能力

4 指導計画

時	ねらい	主な活動内容	指導・支援・配慮事項
事前指 帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> 友達のよさに気づきよさを発表することで、自信をもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達のよさを見つけて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員のよさを見つけ発表させるために、よさを見つける時間を保証した。 友達のよさを見つけ発表した児童に対して、「見つけてよかった」「発表してよかった」と思えるよう、誉めた。 児童が発表した後に、児童には気づくのが困難だと思われる児童のよさは教師から補足した。
1 仕事を 見つめよう	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの仕事に関心を持ち、仕事をしている人に対して尊敬の気持ちをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「朝がくると」(まどみちお)の詩の感想を交流する。 自分の身の回りで働いている人の仕事の内容や頑張りを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「朝がくると」の詩から、自分が様々な人に支えられている存在であること、自分も誰かの役に立つ存在であること、そのために今を頑張って生きていかなければならないこと等を感得させられるように支援する。 仕事に対する関心を高めるために、両親や地域の方の仕事に視点をおき、話し合いをさせる。その際、身の回りで働いている人が「頑張っている」「頑張ってくれている」という印象をもたせるように話し合いを進めていく。
互いのよさ を見つめよう	<ul style="list-style-type: none"> 友達の頑張りや努力しているところに気づき、他を認めようとしている。 他に認められる喜びを感じ、今後の生活に意欲をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の「頑張っているところ」「すごいなと感じたところ」を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が友達から認めもらえる活動は、どの児童にとっても喜びであり、自信につながる。次時での自分のよさを見つけたり、将来の希望を描いたりできる態度につなげるため、友達の頑張りを見つける視点を例示し、しっかりと考えさせる。 たくさんの友達の頑張りを見つけられるよう、「他者を認めることは自分も他者から認められることにつながる」ことを告げ、取り組ませる。 「頑張ってたかった」「自信がついた」と全員が満足感をもてるよう教師からも認め、共感する言葉を添える。 温かい雰囲気作りを大切にしていく。
1 本 自分のよさ を見つめよう・ 将来の希望	<ul style="list-style-type: none"> 目標に向かってあきらめずに努力することの大切さに気づき将来への希望をもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の「頑張ったところ」「努力できたところ」を見つける。 自分の将来の希望を考える。 友達の発表を聞き、感想をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員に自分の頑張りを見つけることができたという経験をさせる。そのために、自分の頑張りを見つけることができない児童がいる場合は、これまでに友達から認めってもらったことを振り返らせたり、教師からも認めてあげたりして、自信をもたせてから取り組ませる。 自分の頑張りはグループ内での発表形態を取り入れ、全員が自分の頑張りを発表できるようにさせていく。 自分の頑張りを見つける学習から将来の希望を描く学習のつながりとして、「今、自分が頑張っていることが将来、自分の道を切り開く力となること、そういう力がみんなにあるということがわかったこと、その力を感じながら将来の夢をもう一度考えてみよう」ということを話す。 将来の希望は「中学での目標」「夢」「生き方像」等の項目を設け、個々の実態に即して、思い描くことのできるものへの希望に記入させる。 自分が今、この時間に具体的に希望を描くことができなくても、友達の考えを聞いて感心したり、いつか自分も友達のような夢をもちたいという考えをもったりできればよいとする。
事後指導 学級活動	<ul style="list-style-type: none"> 自分の将来の希望をまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の未来史を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来を見つめ、希望をもって生きていけるような未来史になるようにさせていく。

5 本時の指導

(1) ねらい

目標に向かってあきらめずに努力することの大切さに気づき、将来への希望をもつことができる。

(2) 評価規準

思考・判断

互いの考えを交流し合いながら、自己を生かす方法について考え、判断している。

技能・表現

自己を見つめながら、将来について自分なりの考えを表現することができる。

(3) 展開

段階	活動の流れ	児童の活動	・指導上の留意点	評価の観点
導入 (5)	1 学習内容の確認をする。	・これまでの学習の想起をする。	・前時で友達に頑張りを見つけてもらったことを振り返らせ、どの児童にも頑張る気持ちがあること、頑張った経験があることに対して、「素晴らしい」ということを伝える。	
	2 学習課題を把握する。	自分の頑張ったことを見つけ、これからの目標をもとう。		
展開 (40)	3 自分の頑張ったこと・努力したことを見つける。	・自分の頑張ったこと・努力したことを見つけ、学習シートに記入する。	・様々な角度から自分の頑張りを見つけられるよう、シートを2面用意する。 ・全体を見て自分の頑張りを見つけない児童が多かったり、頑張りが偏ったりしている場合には、いくつか例を提示する。 ・自分の頑張りを見つけない児童は、自分に自信がないものと思われる。そこで、これまでに友達から認めてもらったことを振り返らせたり、教師からも認めてあげたりし、自信をもたせ見つけさせる。 自分の頑張りを見つめることができたか。(プリント・発表)	
	4 自分の頑張ったこと・努力したことを発表する。	・グループ内での発表をする。(全員) ・友達の頑張りに対して「すごい」と思ったこと等、コメントを書く。	・全員が自分の頑張りを発表できるように、発表形態を少人数のグループで行う。その際、自分で頑張りを見つめることができた喜びを味わわせ、今後の自信につなげさせるために、グループ内で友達の頑張りに対してコメントを書かせる活動を取り入れる。 ・全員が発表したことを確認し、自分のよさを自分で述べることでできた態度について誉める。 ・グループ内で発表したものを全体に広げるため、代表を決めさせる。代表を決める際、全体に紹介したいなという児童の頑張り話し合わせる。 ・他のグループで頑張りについてどのようなコメントが書かれたのか全体に広めるため、コメントも添えて発表させる。	
	5 自分の将来の希望を考える。	・将来の希望を考える。 「中学校の目標」 「将来の夢」 「どんな人になりたいか」	・自分の頑張りを見つめる学習から将来の希望を描く学習のつながりとして、「今、自分が頑張っていることが将来、自分の道を切り開く力となること、そういう力がみんなにあるということがわかったこと、その力を感じながら将来の夢をもう一度考えてみよう」ということを話す。 ・児童の将来像に対する意識には個人差があると思われる。その個人差も認め、全員に夢や目標を描かせ、将来への希望をもたせるために「中学校への目標」「将来の夢」「どんな人になりたいか」という項目をから、自分の書けるところを書くよう、指示する。 将来の希望を描くことができたか(プリント)	
	6 将来の希望を発表する。	・将来の希望を発表する。	・個々の希望を全体で認めてあげられるよう、短冊に書かせ、板書させる。 ・友達の将来の希望を聞いて、他者理解を深めたり自分の将来についてさらに深く考えたりする時間とさせる。	
終末 (15)	7 感想をまとめる。	・本時の学習の感想を書き、発表する。	・自分が今この時間に具体的な希望を描くことができなくても、友達の考えを聞いて感心したり、いつか自分も友達のような夢をもちたいという考えをもったりできればよいとする。	
	8 学習のまとめをする。		・自他のよさを見つめたり、将来の希望を描いたりしてきたことへの価値を述べ、学習のまとめとする。	